



事前の備えに「港区防災アプリ」 ～災害から身を守るために～

東京都港区防災危機管理室防災課主事 星川 健夫

はじめまして、なぜアプリ？

「港区防災アプリ」は、2013年9月に、港区防災課が、港区の防災対策としては初めてアプリを開発し、配信をしたものです。この「港区防災アプリ」は、地震や豪雨、津波などの災害から身を守るために、災害が発生する事前の備えとして、皆さまに活用をしていただくことを目的としています。

災害時には、携帯電話の電波が輻輳し、例えば避難所の場所を確認する、自分がいる場所が安全かどうかを確認するなど、必要な情報を取得することが困難になることが予想されることから、あえて事前の活用を目的としています。

この「港区防災アプリ」を平常時からあらかじめ取得し、アプリ内の防災地図や防災施設の紹介、各種ハザードマップなどのコンテンツを活用し、自分の住んでいる場所から最も近い避難所や今いる場所が災害時どのような被害を受けるのかを事前に確認していただくことで、災害時に落ち着いた行動ができると考えています。

行って見て知って 「津波浸水深3Dイメージ」

「港区防災アプリ」には、さまざまなコンテンツを準備しており、順次更新を行っていますが、「津波浸水深3Dイメージ」のコンテンツが最も特徴的です。

この「津波浸水深3Dイメージ」は、2012年度に港区が独自に行った「津波・液状化シミュレーション結果」のデータを元に、アプリをGPS機能と連動させ、港区内のどの場所においても、この機能を使って、今自分のいる場所の津波による浸水深を3Dイメージで確認することができます。港区内の津波による浸水深は、アプリ内コンテンツの「津波ハザードマップ」においても確認することができますが、「津波浸水深3Dイメージ」のコンテンツを活用し、実際の港区内の風景と照らし合わせることで、浸水深のイメージを体感することができます。

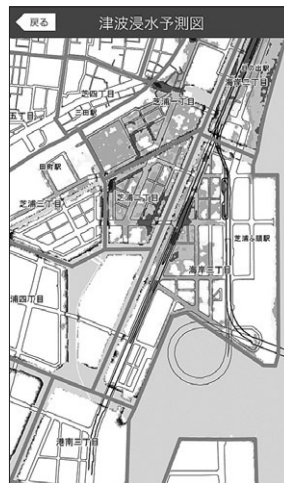
津波は第1波が発生してから、繰り返し第2波、



「港区防災アプリ」アプリアイコン



トップメニュー



津波浸水予測図



津波浸水深3Dイメージ

3波が発生すると言われています。津波の発生に備え、日常から津波に対する正しい知識と避難の方法を身につけ、安全で確実な避難を心がけていただきたいと思います。

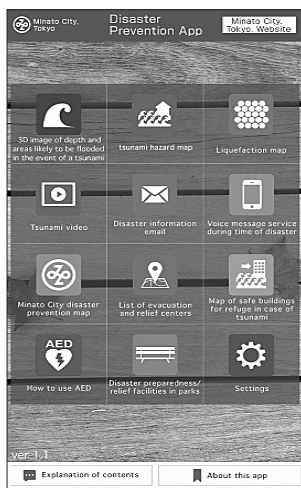
港区特有「多言語対応」

「港区防災アプリ」は2013年9月に日本語版の配信を開始し、同年11月には、多言語対応として、英語・中国語・ハンゲルのコンテンツ配信を開始しました。

港区は、人口の約1割が外国人の方々です。また、港区内には80を超える大使館が存在するとともに、世界中の各国から毎年多くの外国人観光客が訪れる国際都市でもあります。

そのため、災害対策においても、日本語のみならず多言語に対応することが重要であるため、「港区防災アプリ」の多言語対応をしました。

港区の災害対策として、「港区防災アプリ」以外にも、各種ハザードマップや防災啓発用パンフレットの多言語対応を行っています。



トップメニュー（英語）



トップメニュー（ハンゲル）



トップメニュー（中国語）

外国人の方々の防災に対する関心も非常に高く、地域の防災訓練などにも積極的に参加をいただいています。

誰もが安全で安心なまちへ

2014年4月現在、「港区防災アプリ」は約7,000ダウンロードをいただいています。アプリの配信から1年が経過しましたが、より多くの方々にこのアプリを活用していただきたいと思っています。

港区では、今後このアプリを活用して、利用者の方々に的確に分かりやすく防災知識の普及啓発をすることや災害情報の伝達をするために現在も日々機能の改善に努めています。

また、外国人の方々を含め、より多くの方々に「港区防災アプリ」を知っていただき、利用してもらうための周知活動にも努めています。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの際には、港区にも世界中からたくさんの外国人の訪問が予想されます。

港区民のみならず、港区を訪れる世界中の皆さんに、港区の魅力を存分に感じていただくとともに、安全で安心に過ごすことのできるまちづくりを目指し、これからも防災対策に取り組んでいきたいと思っています。



震災技術対策展において「港区防災アプリ」を展示（2014年2月）